

大学名 浜松医科大学

第67号 特集テーマ「大学と新しい学び」

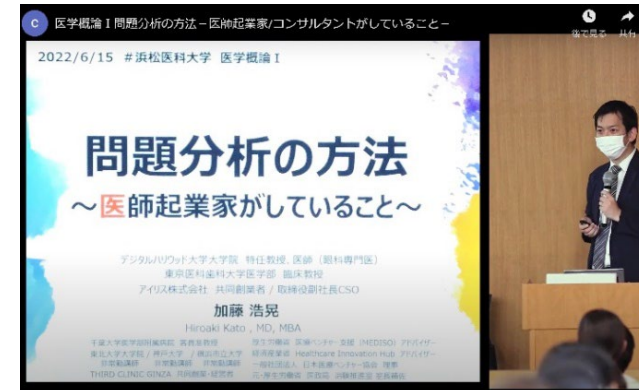
表題 医学部におけるアントレプレナーシップ教育の推進

浜松医科大学では2022年4月、文部科学省、内閣府からの支援を頂き次世代創造医工情報教育センター(Nx-CEC)が設置された。当センターは医学・工学・情報学の緊密な連携による製品開発やデータサイエンス・AI技術を基盤として、社会課題の解決に挑戦できるデザイン思考やアントレプレナーシップ教育を行うという全国の医学部でも特徴的な取組を実施している。

本学が考えるアントレプレナーシップは、医学部という特性を踏まえて、一般的な起業家精神とは少し異なり、社会や医療の中で生じるさまざまな問題点にイノベーションや創意工夫を通じて立ち向かい、問題解決につながる能力をアントレプレナーシップとしている。そして問題解決につなげたイノベーションを知財化し、起業する。これが医学部におけるアントレプレナーシップ教育の第一のゴールと考えており、単に起業だけを推進しているものではない。

具体的には、地域のスタートアップ企業の代表や医師起業家を講師に招いての講義や、「自由に発想すること、自ら行動を起こすこと」を重視し、ユニークなアイデアで課題解決をする能力を身に着けることを目標とした授業の実施など、1年次から継続してアントレプレナーシップ教育を行っている。また、データサイエンスやキャリア教育セミナーの開催、学生を対象としたピッチコンテストの実施、地域ベンチャー企業へのインターンシップの機会も準備するなど、医学教育とアントレプレナーシップ教育を組み合わせて、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく医療人を育成する。

地域における社会課題は、医療からのアプローチで解決に導くことができるものも少なくない。今後メディカルDXの促進や働き方改革による医療のタスクシフトは、医療活動における労働時間を効率化する必要がある。心身共に余力を持った医療人が、アントレプレナーシップの素養を備えて社会課題に挑めば、医療業界だけではなく社会全体に好循環をもたらしていくものと考えている。



医学科・看護学科学生を対象に、スタートアップ企業代表や医師起業家を講師に招いての講義を実施



学生ピッチコンテストの様子
コロナ禍の影響か、機器開発だけでなく、コミュニティ形成の提案が複数プレゼンされた